

公共トイレにおける外国人対応に関する研究



ライフデザイン学部 人間環境デザイン学科

北 真吾 准教授 Shingo Kita

研究概要

高速道路休憩施設のトイレにおける外国人対応に関するユーザーインターフェースの研究

研究シーズの内容

本研究は中日本高速道路株式会社(NEXCO 中日本)と共同で行っている、日本の高速道路休憩施設のトイレ便房内のタブレット型コンピュータを用いたサインの多言語化対策の研究の一部となります。

温水洗浄便座は日本国内においては一般的な設備となっているが、外国からの旅行者にとってはまだ、特殊な設備です。研究では温水洗浄便座のコントローラを従来のリモコン形式からタブレット型コンピュータに置き換えることによって、複数の言語(現在は5カ国)に対応可能なインターフェースのデザインを行っています。

デザインは以下3つの視点を持って進めています。

1. 多言語による表示において特に文字の表記の乱れがないこと。
2. 操作や機能の説明は文字だけでなくピクトグラムやアニメーションなど言語に依存しない方法も積極的に採用すること。
3. 外国からの旅行者だけでなく国内の不特定多数使用者に対しても混乱のない温水洗浄便座の使用を導くこと。



研究シーズの応用例・産業界へのアピールポイント

インバウンド観光施設に対応可能なユーザーインターフェースの開発および公共施設のピクトグラム開発

特記事項(関連する発表論文・特許名称・出願番号等)

中日本高速道路株式会社、厚木 PA 内トイレにて試験運用中(2017年7月現在)